

日本の政治の「今」と「これから」を考える

立憲民主党代表
枝野 幸男

- * 対立軸は右左ではなく上下
- * 成功体験は通用しない
- * 公的サービスに資金注入
- * 景気対策として最適
- * 待遇改善で介護士確保
- * 大量生産は時代遅れ
- * 立憲民主党は保守本流
- * 多神教の稲作文明
- * 1割る2が2に
- * 本当の国会改革は
- * 小型水力には可能性



柴生田 それでは開会いたします。（拍手）

国会延長で1週間遅れになりましたが、立憲民主党の枝野代表においていただきました。改めて詳しいご紹介は必要ないと思いますが、われわれから見ますと国会が劣化しているような状況の中で、孤軍奮闘といつては何ですが、頑張っておられます。主義主張はともかくとして、自民党一強の態勢の中でさまざまな問題が議論もされないまま日本は漂流するといったようなことがあつてはならないわけです。そういう意味で来年の参議院選挙に向けて枝野さんが率いる立憲民主党がどういう考え方で、どういう論点をわれわれに打ち出していただけなのか、今日はその辺りをじっくりお聞きしたいと思っております。それでは枝野さんよろしくお願

いたします。（拍手）

対立軸は右左ではなく上下

枝野 皆さんこんにちは。立憲民主党代表の枝野でございます。こうした場にお招きをいただいて、立憲民主党の考えていることをゆっくり聞いていただけるといふのはたいへんありがたいと思っております。新聞とかテレビでは野党は対案がないとか、批判ばかりだというデマにさらされていて（笑）、いくら言っても報道してくれないし——報道しないのは当たり前で、選挙のときでなければ野党の主張は実現可能性がないわけですから、野党の主張というのは選挙のときに初めて報道する価値がある。選挙でないときにはいくら対案を出していても取